

イメージアップ活動の一環として コミュニケーション授業の開催

京都府土木施工管理技士会
福田道路株式会社
関西支店

水 澤 心
Kokoro Mizusawa

1. はじめに

現在行われている舗装工事をはじめとする建設業界のイメージアップの一環として、地域の方々や日ごろご迷惑をお掛けしている方々に、工事の必要性や事業の整備効果ならびに工事に対するご理解とご協力を得るとともに、さまざまなまちづくり事業への関心を高めて頂けるきっかけとなることを目的として行う。

今回は、将来を担う子供たちにも、工事に関心を持って頂くために、地元小学校の児童に工事の内容を簡単にわかりやすく説明を行うコミュニケーション授業を開催した。

2. 課題・問題点

小学校の児童に対し、排水性舗装とは何なのか、舗装工事とは何なのかをわかりやすく説明するとなると専門用語が使えない、言葉の意味がわからないなどが懸念された。

また、単調な説明でコミュニケーション授業に飽きてしまうことが懸念された。

3. 対応策・工夫

授業の進行順

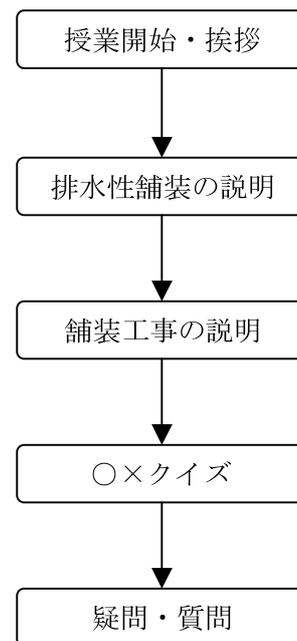


図-1

排水性舗装の効果を説明するのに、経験したことがあるかもしれない身近なことを例に挙げて説明した。

例-1

雨の日、傘を差して道路を歩いていたら、通り過ぎる車に水をかけられた。

例-2

雨の日、車に乗っていて、濡れた路面でスリップした、スリップしそうになった。

例-3

走りすぎる車の音が気になった。もしくは、うるさく感じた。

例に挙げた事例を大きく図にして掲示し、普通の舗装の場合と排水性舗装の場合との違いを説明した。

排水性舗装のしくみを説明するのに、路面に降った雨が排水性の舗装を浸透して、基層面を流れて側溝に流れ落ちて排水される構造を模型にして説明を行った。

舗装工事の内容を説明するのに、建設機械や作業状況をアニメーションにして、説明を行った。

また、授業を飽きさせない工夫として、○×クイズを取り入れた。教室を半分に分けて、児童に正解と思うほうに移動してもらい回答を発表した。

4. 効果

水はねなど身近な例を挙げることで児童にも理解してもらえたと思われる。

舗装を断面化した模型を利用することで、排水性舗装のしくみを理解してもらえたと思われる。

舗装工事の説明をするのにアニメーションを利用したことで、言葉だけで説明するより理解が深まったと思われる。

また、一方的にこちらから説明するのではなく、途中児童に理解できたかどうか、質問はありますかと、児童にも発言する機会を与えることで、授業に集中してもらえることが出来た。

さらに、○×クイズを取り入れることで、児童たちにも楽しく積極的に授業に参加してもらえたと思われる。



写真-1



写真-2

5. 採用時の留意点

社会科で、自分たちの地域のことなどまちづくりに関連性のある勉強をする3、4年生以上であれば、授業に沿った体験学習で、大きな効果が期待される。

ただし、小学校の総合学習の時間を利用している取り組みなので、時間が確保できるかどうかは学校側に確認する必要がある。

パネルやプロジェクターを利用して、いかにわかりやすくするか、クイズなどで楽しみながら学べるようにする、疑問・質問をうけつけコミュニケーションをはかる工夫が必要である。